

日経平均株価

1万6754円02銭

▼53円60銭 (前日比)

TOPIX

1349.56

▼3.11 (前日比)

2016
9/26
月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社
〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6F
TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861
marketpress.jp



「シーテック」開催せまる

IoTやAIなど最先端技術が集結



CEATEC JAPAN 2016
2016年10月4日(日)・7日(木)
会場: 幕張メッセ
主催: CEATEC JAPAN 実行委員会
協賛: 一般財団法人情報通信技術振興会
協賛: 一般社団法人電子情報技術産業協会
協賛: 一般社団法人ソフトウェア産業協会

「CEATEC JAPAN 2016」でまず注目を集めそうなのがコンフレレンスの内容。10月4日は「Pepper」とIBM Watsonの効果的活用「法」として、米IBMが開発した人工知能型システムと繋がったソフトウェアバンクグループ(9984)の知的ロボット「P

Pepper」の取り組みが発表される予定。同じく4日には富士通(6702)が「IoTがもたらす豊かな未来に向けて」と題してキーノートスピーチが予定されている。また特別企画として予定されているIoTタウンではセコム(9735)が初

ソフトバンクの講演に関心

10月4日から7日まで国内最大のIT家電見本市である「CEATEC JAPAN 2016」が幕張メッセで開催される。今年の見本市では株式市場でも幾度となく話題となったIoTや自動運転、人工知能など最先端の技術が各社から公開される見通し。手掛かり材料難の状況下、関連銘柄の動向が個別で注目されることになりそうだ。

このほか車載に求められる温度変化が大きい環境でも高精度の電流検出が可能なたんぱく質検出用低抵抗チップ抵抗器を

KOA(6999)が、日本ガイシ(5333)がNAS電池とIoTによるVPP(バーチャルパワープラント)の構築、村田製作所(6981)はIoT社会を実現するためにコラボレーションしているパートナー企業との事例や、IoT機器には欠かせない通信モジュール、各種センサなどの電子部品紹介する予定。

日経平均日足チャート



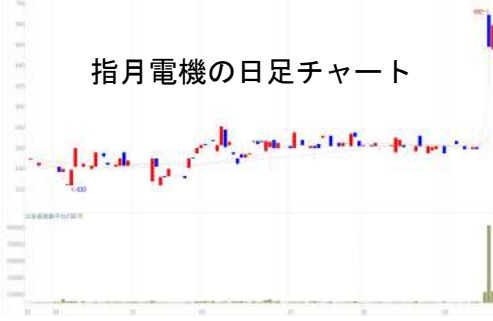
今週の動意銘柄

指月電機ストツプ高

村田製とEV向け本格的拡大

週明け20日、指月電機製作所(6994)がストツプ高。村田製作所(6981)と資本業務提携すると発表したことが材料視された。村田製とはセラミックスコンデンサとフィルムコンデンサ技術を融合した新素材の共同開発を進めてきたが、新商品開発に一定のメドがついたことから合弁会社

指月電機の日足チャート



日本トリム急反発

電解水透析新型システム本格販売

20日、日本トリム(6788)が反発。電解水透析に活用した「電解水透析」の新型システムを本格販売することを発表した。従来システムから医療現場の意見、要望を反映し、普及を意

識した改良版システムの開発を福島県立医科大学らと行い、小型化、熱水消費機能の強化等に加え、設置環境の影響を受けにくい安定した溶存水素濃度の電解RO水を生成する機能を実装。電解水透析システムは透析患者の抱える倦怠感などの症状軽減などの副作用を改善することなどが期待された。透析療法で、新型システムが普及が期待される。

20日、環境管理センター(4657)が前週末に続いてストツプ高まで買われた。ダイオキシンなど超微量分析に優位性を持つ環境総合コンサルタントで、豊洲市場の土壌汚染対策を巡り、思惑買いが続いており、値動きの軽さが短期資金を呼び込み、株価上昇に拍車をかけた。

環境管理連続S高

豊洲汚染対策巡り

21日、東京製鐵(5423)が大幅続落。H形鋼販売価格が1トン6万5000円と9月の7万2000円から低下したと発表されたことが引き続き嫌気された。鋼材市況は鉄スクラップ価格下落と需要低迷を受けて低下傾向を強めており、値上げを発表した共英製鋼(5440)も安い。

東京製鐵大幅続落

21日、神戸物産(3038)が大幅に3日続伸、277円高の2500円まで買われた。この日午前9時に発表した16年8月の月次実績速報値で「業務スーパー」店舗への出荷実績が既存店で前年同月比5.6%増、全店で同9.2%増と好調だったことが材料視された。円高により輸入コストが低減、自社食品工場などのオリジナル商品がSNS上で話題になるなど販売が好調に推移している。

神戸物産は販売好調

を設立、電気自動車(EV)搭載システム向けを本格的に拡大していくことになった。村田製は指月電株式を1株563円で390万株(約22億円)で取得、指月電は調達資金を合弁会社への投融資と

20日、タカタ(7312)が急反落。再建をめぐり支援に

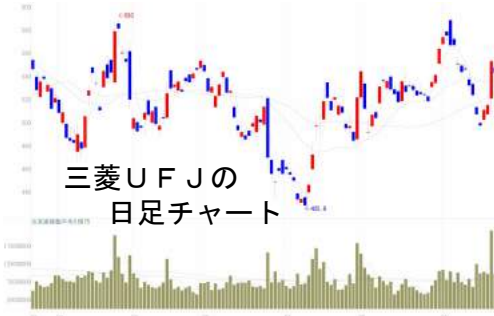
タカタ的整理も

名乗りを上げているスポンサー候補が、再生手法は法的整理も視野に入れていたと伝わったことから、見切り売りが出た。入札には米ベインキャピタル、コールバーグ・クラビス・ロバートズ(KKR)、カライル・グループなど複数の投資ファンドが参加。将来負債や法的責任への懸念が強いという。

クミアイ、イハラケミ統合

21日、クミアイ化学工業(4996)とイハラケミカル工業(4989)が急伸。経営統合で基本合意したと発表したことを受け、合併による事業規模と今後の業績拡大を期待した買いが向かった。両社は共同で新農薬を開発、製販分離体制で相互補完による事業運営を進めており、一層の競争力

強化を目的に経営統合を決めた。合併期日は5月1日でクミアイ化がイハラケミを吸収合併、イハラケミ株は上場廃止となる。合併比率はデューデリジエンスや第三者機関による株式価値算定の結果を踏まえて決定する。



金融株が上げ幅拡大

日銀金融政策決定会合の結果受け

21日、三菱UFJ、Jフィナンシャルグループ、三井住友フィナンシャルグループ(831)など(831)のメガバンクをはじめ銀行株が後場に入って上げ幅を拡大。この日昼過ぎに発表された日銀金融政策決定会合の結果は、マイナス金利の深掘りを見送り、マ

ナス0.1%を維持することから、短期的な安心感から買戻しが優勢になった。国債、ETF、REITの買い入れ。EITの買入れ。EITは現状を維持。長短金利の操作を行うイールドカーブ・コントロールと物価上昇率の実績値が安定的に2%を超えるまで資金供給拡大を継続することを金融政策の柱に据えた。このため、超長期債の運用比率が高く、m収益にプラスに働く**第一生命保険**(8750)や**T&Dホールディングス**(8795)など生損保株も上げ幅を広げた。

クスリのアオキ上ブレ意識

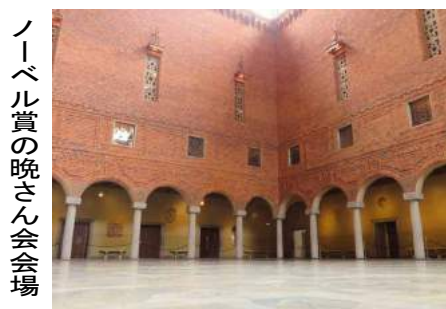
21日、クスリのアオキ(3398)が急反発。17年5月期第1四半期の単独決算は営業利益30億3300万円(前年同期比11.2%増)と2ケタ増益で着地した。計15店舗を新規出店、計8店の

ドラッグストア併設など積極的な出店策で業績を拡大した。第2四半期計画の47億9800万円(同1.3%増)に対する1Qの進捗率は63%を超え、利益上振れが意識された。

マーケットの話題

今年もノーベル賞の発表シーズンが到来する。発表は毎年10月、授賞日は12月であることから、今年も受賞期待から関連銘柄が個別で動くかも知れない。

12年iPS細胞が印象的



日本賞、この数年は13年以外、賞者にいる。印象的だったのが12年、山中伸弥教授で、iPS細胞に関連してバイオの関連銘柄が物色された。この数年、毎年受賞が期待されているのが村上春樹氏の授が医学賞。この数年は10月

ノーベル賞シーズン到来

理学賞、14年に赤崎勇の発表前に三洋堂ホールディングス(3058)、丸善C名古屋大教授、中村修二HIホールディングス(3159)、文教堂グループホールディングス(9978)の書店大手が動意となり、受賞ができた後には調整するパターンになっていく。村上氏以外でも物理学賞や医学・生理学賞などで受賞予想が流れているが、当然ながら発表されてみないと結果は分からない。ただ、発表後に買われる関連銘柄は一日だけの打ち上げ花火にはならず、物色が数日続くケースが多い。日本人の受賞を期待して待ちたい。

シンバイオはノーベル賞に期待

週末23日、シンバイオ製薬(4582)がストップ高。トムソン・ロイターが発表した「トムソン・ロイター引用栄誉賞」(ノーベル賞予測)に同社シニアアドバイザー

の崇城大学DDS研究所特任教授・熊田浩氏が含まれていることが材料視される。がん治療における高分子薬物の血管透過性・滞留性亢進(EPR)効果の発見が受賞理由で、10月に予定されているノーベル賞に期待が高まった。

タナベ経8カ月ぶり高値

23日、タナベ経営(9644)が急伸、約8カ月半ぶりに年初来高値を更新した。28日付で市場2部から1部銘柄に指定されると発表したこと、指数連動ファンダ組み入れなどによる株高を期待した買いを集めた。

原料安効果なども

高濃度洗剤・洗浄剤を拡販

今17年5月期は大幅な増益見込む

している。新製品投入と営業戦略推進による売上増や

様々な施策によるコスト削減の積み上げ、原油安や円高による原料安が追い風になり、前期は退職給付債務計算における割引率変更で営業利益が2億円近く減少した反動による増益効果もあり、今17年5月期は通期連結売上高155億円（前期比4.3%増）、営業利益9億5000万円（同45.2%増）と大幅な増益を見込んでいる。

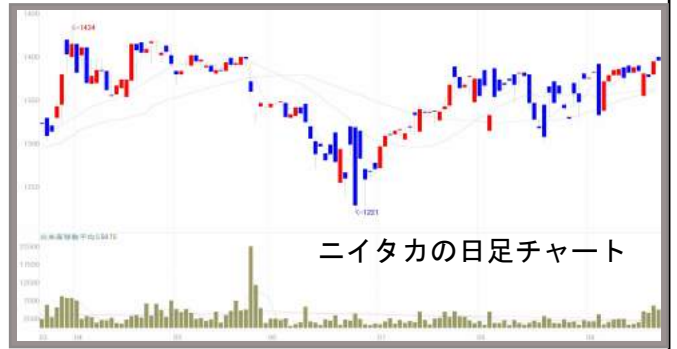
ニイタカ (4465)

ニイタカ（4465）は業務用洗剤・洗浄剤、固形燃料の製造・販売を展開、旅館や外食向けの固形燃料に関しては国内シェア6割以上とトップを誇り、フードビジネス業界の頼れるパートナーとして、ユーザーから厚い信頼を得ている。

環境にやさしく、コストパフォーマンスにも優れたパウチ包装タイプの高濃度洗剤・洗浄剤のラインアップを強化するとともに、食器洗浄機メンテナンスや衛生サービスなどのサポート体制をより強化することにより、大規模ユーザーの獲得や既存顧客からの受注増に取り組んでいる。一方、固形燃料の「カエン」は大手外食チェーン向けの鍋メニューなどで採用が

増加し、売り上げと利益増に貢献

特選銘柄



ニイタカの日足チャート

日本金銭機械の日足チャート



23日、日本金銭機械（6418）、オイズミ（6428）、テックファームホールディングス（3625）が大幅高に買われるなど、カジノ関連の一角が人気を集めた。22日付け日本経済新聞が「大阪府が2025年の誘致を目指す国際博覧会の会場候補地について、府と大阪市は人工島

カジノ関連人気集める

大阪万博候補地集約報道受け

の夢洲（ゆめしま、大阪市此花区）に集約することを正式に決めた」と報じたことを受け、カジノ整備へ思惑が再燃した。

埋め立て済み用地のほか、西側の廃棄物理立処分場などを活用し会場に必要とされる100ヘクタールを確保。府・市が誘致するカジノを含むIR（統合型リゾート）用地も最大70ヘクタール生み出せると伝えている。

松井証値下りトップ

23日、松井証券（8628）が急反落、東証1部値下がりと率トツプとなった。未定としていた第2四半期末配当を13円にする

23日、森永乳業（2264）が続騰、2カ月半ぶりに年初来高値を更新した。円高進行で利益上ぶれを期待した買いが向かった。1Qの営業利益進捗率は2Q計画に対して63%、通期44%に達する。

JACRは月次好調

23日、ジェイエイシーリクルートメント（2124）は急反発。8月度の連結

今週の動意銘柄

今週の

活躍期待銘柄



日本コンクリート (5269)

東京インフラ整備に期待

日本コンクリート工業(5269)は9月15日の安値321円で下げ止まる動きとなってきた。PBR0.6倍の時価は下値不安が少なく、ここからの出直りに期待したい。第1四半期は基礎事業の苦戦により大幅な減益を余儀なくされているが、第2四半期以降はパイルを中心に官公需向けの回復が見込まれるうえ、コンクリート二次製品では通信線路用や防球ネット用・照明用、携帯基地局向けの各ポータルが好調に推移、今17年3月期は通期連結営業利益で18億5000万円(前期比78.5%増)の期初予想達成へ向け不安はない。東京外環道向けや横浜環状線向けの関連受注に加えて中長期的には2020年の東京五輪へ向けてのインフラ整備需要も期待される。従来工法比で半分以下の工期を実現したPC壁体工法も注目される。(と)

今期79%営業増益達成へ



鈴茂器工 (6405)

寿司ロボットで海外市場開拓

鈴茂器工(6405)は14日に年初来高値1439円をつけたあと強い動き。5日移動平均を下値支持ラインに一段高を志向してきた。寿司ロボットなど米飯加工機械メーカーで、回転寿司や持ち帰り寿司のほか、大手惣菜業者向けにも販売を伸ばし業績は順調に拡大。17年3月期は連結売上高87億円(前期比3.9%増)、営業利益13億円(同2.2%増)と過去最高更新を見込む。最終利益は6億9000万円(同11.5%減)と伸び悩むものの、これは為替差損計上によるもの。シンガポール合弁会社と子会社を通じたアジア、北米市場開拓もこれからの中期業績にも一段の業績拡大が期待される。

PERは11倍台と割安感が働き、PBRも1倍割れ。年初来高値奪回から上場来高値1625円が目標になる。(先)

業績順調でPERは11倍台

※チャートは日足

高野恭壽の株式情報 **これでどや!!**



株式市場新聞の名物コーナーが復活!

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

21日に日銀の政策会合の結果発表で当初、政策の見送りが優勢とみられていたのですが、マインナ金利の一段の拡大を取り

やめたことや量的緩和一辺倒というこれまでの政策を維持しながら金利政策に新たに重点を置いた政策に転換し、2%の物価上昇まで長期にわたって緩和政策を続けることを決めました。マインナ金利の拡大があるのではないかとの見方も警戒されて直前まで銀行株は低迷していたのですが、取りやめたことに好感して一気に急騰、21日の東京市場

反落場面は強気姿勢で

は金融系を含めてほぼ全面高となりました。しかし、21日の海外為替市場で「マインナ金利に

日医工と穴株はアンジェスMG

進まなかったことや量的緩和策をしなかった」ことで円買いとなり、一時は100円07銭と100円割れぎりぎりまで円が買われました。これは米国の連銀が同日に金利の引き上げを見送ったことも影響しています。しかし、100円割れは強烈な抵抗ラインになっていて、次第に円相場は円安に戻り、100円後半まで戻っています。22日はシカゴの日経平均先物市場では一時は1万6500円近くまで下落していましたが、その後は次第に戻しはじめ、21日の日経平均の終値近辺まで戻っています。

このような状況を考えますと、日銀の柔軟な政策が好感されて、今後は戻していくものと考えられます。下落した場面は強気姿勢で臨むことでいでしょう。日経平均は上昇トレンドを維持しており、急騰の後は一服しても再び買われる可能性が高いといえます。当面の目標は1万6902円の9月9日のマド埋め水準になります。そして、5日に付けた1万7156円の奪還が早ければ今月中にも実現する



ことになりそうです。今回の狙いは日医工(4541)です。4月以来5カ月間下落していましたが、2857円の期日向かいの動きを期待できます。超穴株としてはアンジェスMG(4563)をバクチ好きの方のみ勝負。バンダイナムコホールディングス(7832)はVRのソフトで先行しており、強い動きを評価。野村ホールディングス(8604)は押し目があれば狙えそうです。

高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式情報
これでどや!!
<http://www.kabun-takano.com/>
毎日情報を配信中!

星野三太郎の 株街往来

～衰退を感じる日本のブランドカ～

16日は友人との待ち合わせまでに時間があるので、ヨドバシ梅田に立ち寄った。携帯電話コーナーでの長蛇の列に驚いてしまったが、そういえばiPhone7の発売日だったことを思い出した。年に一度のこの光景はハロウィンとともに近年では秋の訪れを知らせる季節行事に

なってしまう。

株式市場でも部品を供給する電子部品企業が賑わい、紙面でも話題として取り上げているが、スマホに関しては、アンドロイド端末を含めて成熟した印象が強く、本音をいえばそこまで熱心になる必要があるのかと疑問に感じている。筆者もLINEなどの定番アプリを利用しているが、数年前の端末でも不都合なく動作するし、取材などで鮮明な画像を求めるならスマホではなくデジカメを利用するからだ。

この数年はiPhoneの機能に驚きを感じなくなっているが、それでも日本で人気を集めているのはアップルがブランドを定着させてきたことが大きいだろう。「iPhoneの新型なら買わなきゃ」という行動をさせている面があるのだから。知人に聞くと掃除機が故障したときに奥さんからダイソン製を希望されたそう。改めて日本のブランド力の衰退を感じたが、日本企業には頑張っ



てほしい。



New product

史上最高の香り極まる担担麺

イトアンド よってこや期間限定で



イトアンド(2882)は、ラーメン専門店「よってこや」において、秋季限定商品「よってこや史上最高の香り極まる担担麺」を

よってこや史上最高の香り極まる担担麺

9月16日から11月30日までの期間限定で販売を開始した。

「よってこや史上最高の香り極まる担担麺」は高温焙煎した香りが特徴の練りごまと、むき胡麻のコク深い練りごまを使用した2種類の厚みのあるブレンドごまスープに、シビれる四川赤山椒、風味の強い青山椒のスパイスを使用。甜麵醬たっぷり仕上げた旨辛ミンチはしっとりジューシーで担担麺の味を更に引き立てる。“香り”を追求した、よってこや史上最高の担担麺に仕上げている。

ハリー・ポッターに

USJ

「デス・イーター」降臨!



デス・イーター・アタック

ユニバーサル・スタジオ・ジャパンでは「ウイザーディング・ワールド・オブ・ハリー・ポッター」で、この秋だけの今

まで見たことのない期間限定イベントとして、闇の魔法使い「デス・イーター」が突如降臨し、平和なホグズミード村を一変させ、強力な闇の魔法に包みこむ「デス・イーター・アタック」と、魔法界の摩訶不思議な体験「マジカル・トリック・オア・トリート」を9月14日から開催している。

グランドオープニングに先がけ9月13日にオープニング・セレモニーを開催、特別に招待されたハリー・ポッターファンは圧倒的なスケールで降臨した「デス・イーター」を目の当たりにし、驚愕、感動の歓声を上げた。夕刻には、子供達が「マジカル・トリック・オア・トリート」を体験。満面の笑顔が溢れた。

企業レター

日経225先物日足チャート



敏感先物ディーラー

ハチロクの裏話

ますます膠着感強まる

1万6600円挟み上下500円

注目の日銀金融政策決定会合では「長金利操作（イールドカーブ・コントロール）」を取り入れ、長期金利について「ゼロ%程度」を目標に国債を買い入れた。また、消費者物価指数の実績値が2%を超えるまでマネタリーベースの拡大を継続するとし、政策的には「量から金利へ」変更された感じがする。

一方、株式に関しては今までのETF購入に対し、購入比率を日経225型ETFからTOPIX型ETFの比率を上げる方針とした。

具体的には現行TOPIX型42%、日経225型53%、JPX、日経400型に4%からそれぞれ70%、28%、2%へ変更になり、10月3日より実施される。

現実的に25型は22型購入型の多すぎが、型E22Fの組立てが難しすぎる型E22Fの組立てが難しすぎるP、I、X T

型に変更しなければならなかったようである。これらの発表により銀行株や保険株が上昇したが、結局は「幅を広げて更に買い支えをしますよ」、「だから上値は誰か買ってね」と言っているようなものだ。

思惑で品薄株の上昇は期待できていても全体としてはますます「官制相場」の膠着感が強まり、動きのない展開となろう。

やはり、今後しばらく今年の平均売買価格帯1万6600円の上下500円幅の動きは続きそうである。

(ハチロク)

今週のスケジュール

- 26日 臨時国会召集
 - 独9月 Ifo 景況感指数 (17:00)
 - 米8月新築住宅販売件数 (23:00)
 - 第1回米大統領候補テレビ討論会
- 27日 7月28・29日開催の日銀金融政策決定会合議事要旨
 - 8月企業向けサービス価格指数 (8:50)
 - 9月末権利付き最終日
- 29日 8月商業動態統計 (8:50)
 - 米4-6月期 GDP 確報値 (23:30)
- 30日 9月20・21日開催の日銀金融政策決定会合「主な意見」
 - 8月失業率・有効求人倍率、8月家計調査、8月消費者物価指数 (8:30)
 - 8月鉱工業生産 (8:50)
 - 英4-6月 GDP 確報値 (17:30)
 - ユーロ圏8月失業率 (18:00)
 - 米9月シカゴ購買部協会景況指数 (22:45)

編集後記

先頃、大手化学メーカーの元広報担当者と久しぶりに飲んだ。この人、現会長と同期で今もたまに会うらしいが、最近の会長はすっかり老け込んだという。年齢もあるのだろうが、前職(副社長)の激務が原因かも知れない。思えばここ数年、円安を背景に業績を伸ばす企業が多かったが、一方で原油安に収益を圧迫されるケースも目立った。不祥事も妙に多かったと思う。

金融緩和による円安メリットをもたらした日銀だが、最近手詰まり感が否めない。黒田総裁もお疲れのこただろう。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。